

対キルギス 事業展開計画

2022年 4月 現在

基本方針 (大目標)	持続的かつ均衡のとれた経済成長への支援
---------------	---------------------

重点分野 1 (中目標)	産業育成と雇用の創出														
開発課題 1-1 (小目標) 農畜産品・農畜産加工品の輸出促進	【現状と課題】 キルギスの農・畜産業は就労人口の26%及びGDPの12%を占めるキルギスの重要な産業である。また、人口の約7割が農村部に居住しているため、農業関連部門における雇用機会の創出は、貧困の撲滅のみならず、地域間格差の是正という観点からも極めて重要である。 一方、国内の消費市場の規模を考慮すると、将来的に農業を成長のエンジンとするためには農産品の輸出促進が必要である。豊富な水資源と果樹・野菜生産・牧畜に適した温和な気候という地理的優位性を活かし、輸出競争力を強化することが課題となる。 2015年8月のユーラシア経済同盟（EEU）加盟に伴い、キルギス産業界は大きな変革が求められている。農業関連分野では品質検査及び動植物検疫の重要性が増している。また老朽化した灌漑施設や農業機械、不適切な農業や肥料の利用、栽培技術等に起因して持続可能な農業を行う基盤が失われつつある中、農産品の生産性向上が必要とされている。					【開発課題への対応方針】 農業の競争力を高め、輸出産業促進を図っていくことが求められており、生産基盤の強化による生産性向上や、キルギスのEEUの加盟によってより重要性の増している品質検査及び動植物検疫に取り組む。主要輸出先市場を見据え、近隣諸国に対して比較優位性が高く輸出競争力のある製品について、生産管理面も含めた農畜産品の質の向上にも配慮しつつ、農家の生計向上に資する農業を推進していく。									
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考		
					2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度					
	農産品・農産加工品輸出促進プログラム	輸出競争力のある農畜産品を生産・輸出できる体制の構築、農産物の付加価値を高める農畜産物加工業の育成、生産管理面も含めた質の向上を実現するため、技術的な協力を実施する。	チュイ州市場志向型生乳生産プロジェクト	技プロ	■							4.83	2		
			農業分野の国別研修	国別研修	■									2	
			農業開発・農村開発分野 課題別研修	課題別研修他	■									2	
			乳品質向上のための食品検査人材育成プロジェクト	技プロ	■								3.53	2	
			キルギス共和国国立農業大学における土壌・作物分析技術人材育成プロジェクト	草の根技協	■	■	■							2	
地域におけるフードバリューチェーンを活用した実践的な農業教育プロジェクト			草の根技協	■	■	■							2		

開発課題 1-2 (小目標) 産業振興・中小企業振興	【現状と課題】 経済がロシア等への出稼ぎ労働、金鉱業、農畜産物の一次産品に依存し、出稼ぎ先の景気や商品価格による変動リスクが高い状況にある。また、都市部と地方（特に南部）との格差が拡大している。現代的・市場志向型のノウハウやビジョンを持つ経営者、企業に対する官民の支援人材が依然として不足していることが、より持続性の高い経済成長を目指す上で問題となっている。		【開発課題への対応方針】 日本人材開発センター等を活用し、ビシュケクをはじめ、地方拠点都市においても、軽工業、農畜産品加工、観光業を含むサービス業、IT産業等の発展及び外資企業とのリンケージ促進のために、実践的なビジネス人材育成を行う。また一村一品のアプローチを継続し、特に地方での新規産業の育成、雇用の確保、生計向上に資する協力を推進する。												
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考		
					2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度					
産業振興・中小企業振興プログラム	中小企業振興、ビジネス環境整備、ビジネス人材、行政官の育成。特にEEU加盟に伴う、キルギス産業の変化に対応すべく、日本センター等を通じて、現代的・市場志向型のノウハウやビジョンを持つ産業人材の育成を行う。	一村一品・イシククリ式アプローチの他州展開プロジェクト	技プロ	■	■						6.71	8			
		日本人材開発センター・キルギス企業の競争力強化およびキルギスと日本の交流機能の強化に資する産業人材育成プロジェクト	技プロ		■	■	■	■			4.83	8			
		産業人材育成分野でのJICA海外協力隊派遣	JOCV	■									8		
		中小企業振興分野の無償資金協力	無償	■								1.00	8,9		
		民間セクター開発分野 国別研修		■	■	■	■						8		
		民間セクター開発分野 課題別研修	課題別研修他	■											
		チュイ州世界遺産を活用した地域開発・観光促進プロジェクト	開発計画	■	■	■	■	■				4.03	11		

<p>開発課題 1-3 (小目標) 産業多角化に資する インフラ整備</p>	<p>【現状と課題】</p> <p>キルギスは全長約34,000kmの道路網を有し、旅客・貨物輸送の95%は道路に依存しており、道路インフラは国内の人・モノの移動及び周辺国との交易を担う経済インフラとしてのみならず、社会面からも重要な役割を担っている。一方で、国土の90%以上が山岳地域であるため、特に旅客輸送においては航空輸送も重要な役割を担っているが、これらの道路・航空インフラの老朽化が進んでいる。また、電力インフラ（発電・送電・配電）の老朽化が進み、電力関連企業の慢性的な財政赤字と相まって、電力の安定供給において課題となっている。</p>		<p>【開発課題への対応方針】</p> <p>インフラの整備は、産業の成長・多角化及び輸出能力の向上を図る上での基盤となる。キルギス関係省庁による整備計画や他ドナーの動向を踏まえながら、日本の技術・経験・ノウハウを活かして資金協力および技術協力を行う。また、日本の技術・経験・ノウハウに精通し自国の自然・気象条件に応じた制度設計や技術開発を担う人材を育成する。</p>										
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
					2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度			
	<p>インフラ整備プログラム</p> <p>産業の成長・多角化及び輸出能力の向上を図る上での基盤となる運輸インフラの整備への協力。また、日本の技術・経験・ノウハウに精通し自国の自然・気象条件に応じた制度設計や技術開発を担う人材の育成。</p>	国際幹線道路改善計画	有償	■	■	■					119.15	9	
		ビシュケク-オシユ道路雪崩対策計画	無償	■	■	■					42.88	9	
		タラス-タラズ道路ウルマル川橋梁架け替え計画	無償	■	■	■					17.85	9	
		ビシュケク-オシユ道路地吹雪対策計画	無償	■	■	■	■	■			10.33	9	
		運輸・交通分野 国別研修	国別研修	■	■	■						9	
		運輸・交通分野 課題別研修	課題別研修他	■								9	
道路斜面防災にかかる普及・実証・ビジネス化事業		普及・実証・ビジネス化事業	■	■							9		
省力型全天候舗装補修材を活用した道路維持管理推進にかかる案件化調査		案件化調査	■	■							9		

重点分野2 (中目標)	行政・社会サービスの向上												
開発課題2-1 (小目標) ガバナンス・政策立案・実施能力向上	【現状と課題】 日本の人材育成及びガバナンス能力の向上に係る協力はキルギス政府側から高い評価を受けている。特に「人材育成奨学計画（JDS）」多数の卒業生が政府幹部に就任し指導者として活躍している。一方で依然としてキルギスの公務員制度が抱える課題は多く、第一に汚職の蔓延（腐敗認識指数（CPI）2020では180か国中124位）、第二に給与水準の低さ、第三に説明責任・透明性の低さが挙げられる。キルギスがより高度な行政官を必要とする中で、公務員の能力強化及び公務員制度の充実が課題である。					【開発課題への対応方針】 ガバナンス・政策立案や実施能力向上のため、個々の公務員人材の質の向上や情報通信技術を活用した行政システムの効率化等を通じ、行政サービスを改善する。特に以前よりキルギス政府の評価が高く、中核人材の育成に貢献しているJDSを継続・拡大する。							
	協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考
					2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度			
		人材育成を通じた政策立案・実施能力向上プログラム 政府が有効かつ実効性のある政策を安定的に実施するために必要な政府職員の人材育成、及び民間部門の人材育成を行う。また2020年から2023年までのキルギスの議会選挙、大統領選挙までの一連の選挙過程において、選挙管理機材の供与、関係機関職員の能力強化のための研修の実施等を行う。	人材育成奨学計画 (H30)	無償	■						6.10	4	
			人材育成奨学計画 (R1)	無償	■	■					6.10	4	
			人材育成奨学計画 (R2)	無償	■	■	■				6.10	4	
			人材育成奨学計画 (R3)	無償	■	■	■	■			6.10	4	
			情報通信技術分野の課題別研修	課題別研修他	■	■						4	
			ガバナンス分野の課題別研修	課題別研修他	■	■						4	
			ガバナンス分野の国別研修	国別研修	■	■	■					4	
			青年研修	課題別研修他	■	■						4	
			COVID-19への包括的・分野横断的な社会経済対応支援プロジェクト	無償	■	-	-				1.34	3,9,16	UNDP補正
			新型コロナウイルス感染症に脆弱な途上国女性支援	無償	-	■	■				0.29	5	UN Women補正
	選挙支援計画		無償	■	-	-				4.40	16	UNDP連携	

協カプログラム名	協カプログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考		
				2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度					
				<p>【現状と課題】 旧ソ連時代には一定の水準を保っていた社会サービスは、独立に伴うシステム崩壊・予算不足の結果、質・量ともにサービスが大きく低下した。独立後も、保健医療サービスは、基本的に無料で提供されているが、医療従事者の給与水準の高い他国への流出、医療従事者への教育・訓練不足、医療施設・機材の老朽化等は、国民の健康維持・向上に大きな支障を来している。さらに新型コロナウイルス感染拡大により国の脆弱な保健・医療体制が露呈している。</p> <p>【開発課題への対応方針】 保健・医療体制強化のため、キルギス側で必要性の高い医療関連機材の改善と維持管理能力強化を支援することが重要である。加えて、保健サービスの向上、保健人材の育成・確保、保健財政、保健政策の策定管理といった広範な分野において支援を行う。</p>										
開発課題2-2 (小目標)	社会サービスの向上	社会セクター強化プログラム	保健医療・教育・障がい者支援現場のニーズに沿った技術・ノウハウ面での協力を実施する。	非感染性疾患の早期発見・早期治療のためのパイロットリファラル体制強化プロジェクト	技プロ	■	■	■	■	■	■	■	3	支援額は事業事前評価表にて検討
				ビシュケク市およびチュイ州医療機材整備計画	協準	■							3	
				薬剤師再教育及び国家試験開発事業案件化調査	案件化調査								3	
				薬剤師継続教育及び国家試験開発事業普及・実証・ビジネス化事業	普及・実証・ビジネス化事業	■	■	■	■				3	
				社会的弱者支援分野のJICA海外協力隊派遣	JOCV								3	
				青少年育成支援分野のJICA海外協力隊派遣及びスポーツ・教育支援分野のJICA海外協力隊派遣	JOCV	■							4	
				社会保健分野 課題別研修	課題別研修他	■							3	
				社会保健分野 国別研修	国別研修	■	■	■	■				3	
				草の根・人間の安全保障無償資金協力	草の根無償	■	■						0.81	3,4,6
				草の根文化無償資金協力	草の根文化	■							0.19	4
				母子保健強化計画	無償	■	■						3.92	1,3,6 国連児童基金 (UNICEF)連携
				新型コロナウイルス感染症の影響を受けた児童の質の高い教育確保計画	無償	■	■	■	■				2.98	4,6 国連児童基金 (UNICEF)連携
				気候及び災害リスクに対する児童の強靱性向上計画	無償	■	■						4.38	4,11,13 国連児童基金 (UNICEF)連携

その他														
地域内協力の促進	【現状と課題】 中央アジアは、テロ・麻薬対策、防災、水資源、環境保護等の課題を抱えており、その解決には人間の安全保障の理念に基づいた地域横断的協力を必要とする。 日本は、2004年に中央アジア諸国との対話と協力の枠組みとして「中央アジア+日本」対話を立ち上げ、地域協力の触媒としての役割を果たし、地域全体の安定と発展の確保に努めている。				【開発課題への対応方針】 日本は「中央アジア+日本」対話の枠組みを活用し、中央アジアの開かれ、安定し、自立的な発展を支え、地域協力の発展のための「触媒」としての役割を引き続き果たしていく。また、国際機関ドナーと連携し、アフガニスタン等の周辺地域を含むより広い地域内協力を促進し、国際社会の安定に貢献する。									
	協力プログラム名	協力プログラム概要	案件名	スキーム	実施期間						支援額 (億円)	SDGs	備考	
					2021 年度 以前	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度				
	環境・防災プログラム	観光資源としても重要な意味を持つ自然環境の保全能力向上を図り、開発と環境保護とを両立させる能力の強化を図る。また、水資源の効率的利用・管理、気候変動に伴う害虫による農作物被害への対策及び防災対策の効率化のために不可欠な地域間協力の促進支援を行う。	水資源・防災分野 課題別研修	課題別研修他	■								9,11	
			第二次バッタ管理対策改善計画	無償	■	■	■	■	■	■		7.98	2	FAO連携 複数国対象案件のため 累計額を記載
		中央アジアにおける総合的なリスク管理能力及び地域協力強化計画	無償	■	■	■					6.16	1,13,5	国連開発計画(UNDP)連携 (対象地域:カザフスタン、タジキスタン、キルギス、トルクメニスタン)	
国境管理能力向上プログラム	テロ・麻薬取引、人身取引等、国境を越えて侵入する脅威に対する対応能力の向上を図る。	薬物管理支援計画	無償	■							3.11	16	国連薬物犯罪事務所(UNODC)連携	
		中央アジアにおける暴力的過激主義防止のためのコミュニティ強化及び域内協力促進計画	無償	■							6.88	1	UNDP連携、4か国対象(カザフスタン、キルギス、タジキスタン及びトルクメニスタン)	
		中央アジアにおける国境連絡事務所及び省庁間の機動的チームの能力強化による域内越境協力強化計画	無償	■							7.43	16,17	国連薬物犯罪事務所(UNODC)連携(対象地域:ウズベキスタン、カザフスタン、キルギス、タジキスタン及び	

【凡例】 「協準」(＝全ての協力準備調査)、「詳細設計」(＝詳細設計)、「技プロ」(＝技術協力プロジェクト)、「開発計画」(＝開発計画調査型技術協力)、「個別専門家」、「個別機材」、「国別研修」、「課題別研修他」(＝課題別研修及び青年研修)、「JOCV」(＝JICA海外協力隊)、「第三国専門家」、「第三国研修」、「現地国内研修」、「科学技術」(＝科学技術協力(技プロ型及び個別専門家型))、「草の根技協」(＝草の根技術協力)、「〇〇省技協」(＝外務省・JICA以外の省庁及び独立行政法人等が実施している技術協力)、「民間提案型技協」(＝開発途上の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業)、「無償」(＝以下に特記するサブ・スキームを除く全ての無償資金協力)、「水産無償」(＝水産無償資金協力)、「食糧援助」(＝食糧援助)、「一般文化」(＝一般文化無償資金協力)、「草の根文化」(＝草の根文化無償資金協力)、「緊急無償」(＝緊急無償資金協力)、「日本NGO」(＝日本NGO連携無償資金協力)、「草の根無償」(＝草の根・人間の安全保障無償資金協力)、「有償」(＝円借款、海外投融資)、「情報収集調査」(＝基礎情報収集・確認調査)、「マルチ」(＝国際機関等を通じた多国間協カスキーム)、「基礎調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「基礎調査」)、「案件化調査」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「案件化調査」)、「普及・実証・ビジネス化事業」(＝中小企業・SDGsビジネス支援事業「普及・実証・ビジネス化事業」)、「実線」(＝実施期間)、「破線」(＝実施予定期間) ※この凡例にない略語を使用する場合は凡例に当概略語を記載したうえで使用する。
【SDGsゴールの説明】1「貧困」、2「飢餓」、3「保健」、4「教育」、5「ジェンダー」、6「水・衛生」、7「エネルギー」、8「経済成長と雇用」、9「インフラ、産業化、イノベーション」、10「不平等」、11「持続可能な都市」、12「持続可能な消費と生産」、13「気候変動」14「海洋資源」、15「陸上資源」、16「平和」、17「実施手段」
【SDGsの詳細】 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/SDGs_pamphlet.pdf